



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第43回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

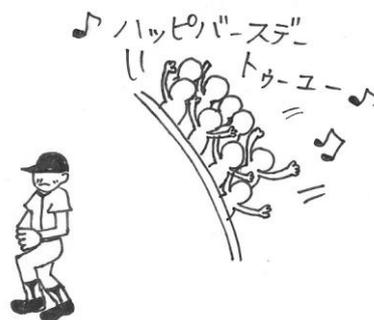
グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 何でもオッケーなのか?

マウンドに走る投手に向けて応援席から「ハッピー・バースデー・トゥー・ユー」の歌声が。大会には不似合いな雰囲気なのですが。

相手チームが無得点なら「コールドゲーム成立」の守備につく時でした。抑えに登板した投手は当日が誕生日、めったにない機会に応援席からのお祝いと激励だったのでしょう。プロのスポーツでは野球に限らず時に見受けられ「ここぞのノリ」を思った人は少なくなかったかもしれません。

大切なことは、自分たちだけで親睦の場を過ごしているのではないこと。まずは対戦チーム、さらには一般の観衆の前で個人的な場面を作り出したことは大きな疑問です。打席に向かう選手に、個別のファイトソングで「カツ飛バセーッ!」を連呼するのは応援の意味が違います。また、緊迫した試合状況でも同じことが出来たのでしょうか?何かにつけて「どこかでやってやろう」という企画心も考えものですが、「何でもOKの風潮を許さない。」と、肝に銘じたい出来事でした。



ルール編 打者がアウトなのか、走者がアウトなのか?

1死で打者がスクイズバントを試みたがウエストボールの投球。飛びついたがバットに触れず、結果的に三塁へ戻る走者に対する捕手の送球を妨害した。このプレイに対する規則の適用は?

関連規則を確認しましょう。

規則6・06(c)→**打者アウト**

打者がバッテースボックスの外に出るか、あるいはなんらかの動作によって、本塁での捕手のプレイおよび捕手の守備または送球を妨害した場合。しかし、例外として、進塁しようとしていた走者がアウトになった場合、および得点しようとした走者が打者の妨害によってアウトの宣告を受けた場合は、打者はアウトにならない。

規則7・08(g)→**走者アウト**

無死または1死で、走者が得点しようとしたとき、打者が本塁における守備側のプレイを妨げた場合。二死であればインターフェアで打者がアウトとなり、得点は記録されない。

【注2】この規定は無死または1死で、走者が得点しようとした際、本塁における野手のプレイを妨げたときの規定であって、走者が本塁に向かってスタートを切っただけの場合とか、一度本塁へは向かったが途中から引き返そうとしている場合には、打者が捕手を妨げることがあっても、本項は適用されない。(以下省略)

規則7・09(c)

無死または1死で、走者三塁の時、打者が本塁における野手のプレイを妨げた場合。この場合、走者がアウトになるが、2死後の場合は打者がアウトになる。

今回のケースは、三塁へ戻ろうとした走者(帰塁プレイ)に対する送球を妨害しているため、打者に<インターフェア(守備妨害)のアウト>が宣告されます。

